

令和7年度 小・中学校における環境教育の取組み

生活科・総合的な学習の時間（全学年）

テーマ 【 ふるさと上牧 ふるさと^{うどの}鵜殿～地域学習を通して環境やSDGsについて考える～ 】

高槻市立上牧小学校

《学習のねらい》

- ・各教科・領域を通じて、自らの住む地域に関心をもち、地域の自然・文化・人々と関わりながら、地域社会の一員としての自覚を育てる。
- ・各教科・領域を通じて、自然や社会との関わりを理解し、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を育む。

《学習の流れ》

実施時期 4月 ～ 3月

① 自然との出会い・興味を育てる（1・2年生）

- ・鵜殿の自然に触れる（鵜殿探検）
- ・鵜殿に生きる動植物を知る

② 地域とのつながり・興味を育てる（3・4年生）

- ・地域の人々と出会う（人と自然の関係性を学ぶ）
- ・鵜殿の歴史と未来を学ぶ（地域資源の活用と保全の重要性を知る）

③ 文化の理解・発信力の育成（5・6年生）

- ・姿を変える^{あし}葦（資源の循環や持続可能な利用を考える）
- ・筆^{ひちりき}とのであい（伝統文化と自然環境の関係を考える）



《指導のポイント》

- ・＜1・2年生＞季節や自然の変化に気づき、親しみを持つ体験を通じて「楽しい」「不思議」と感じる心を育てる。
- ・＜3・4年生＞地域の人々との交流を通じて、環境保全の意識を育てる。地域の伝統や文化に触れ、持続可能な暮らしについて調べ、考え、表現する力を育てる。
- ・＜5・6年生＞SDGsの視点を持ち、持続可能な社会の実現や社会との関わりを意識させる。地域の課題や未来について考え、主体的に発信する力を育てる。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

探検学習、インターネットでの調べ学習、地域に伝わる文献や資料

地域の人々、河川レンジャー、雅楽演奏家、NEXCO 西日本、アトリエ May



《成果》

- ・地域にある葦を初めて知り、その大きさについて驚いていた。
- ・関西万博でも鵜殿の葦が使われていることを知り、誇れるものがあるという喜びを感じていた。
- ・鵜殿にはたくさんの生きものがいることを知り、守っていききたいという気持ちが芽生えた。
- ・地域とのつながりを学習して、地域の人々のおかげで安心して暮らしていることに気づけた。
- ・葦を使って活躍するアトリエ May さんを通して、当たり前を覆すことでアイデアが生まれ、SDGsにつながる観点を意識することを学んだ。
- ・自分たちの地域に誇りを持ち、地域資源や環境保全について考えるきっかけになっていた。